

# 平成25年度決算に係る普通会計の 新公会計方式財務諸表（複式簿記）

## ■新公会計方式とは

町の資産の状況や資金・純資産の動きを、民間企業が行っている複式簿記の方式を用いて、4つの財務諸表に表したものです。

この表をさらに分析したり、他の町と比較することで、改善すべきところが見えてくるなど、健全な財政運営への効果が期待できます。



## ■貸借対照表

左側（資産の部）は、町が持っている土地や建物・お金などの総額を、右側（総資本の部）は、その資産を借金をして持っている資産（負債）と純粋な資産に分けて表しています。

資産の部		総資本の部	
公共資産 庁舎、学校、美術館や 道路、橋、公園などの資産	2,260,407 万円	負債の部	
投資等 投資や出資金、基金など	237,627 万円	固定負債（町債など）	1,038,642 万円
流動資産 現金や未収金など	60,585 万円	流動負債（短期の借入金など）	123,426 万円
		負債合計 A	1,162,068 万円
		純資産の部	
		純資産の合計 B	1,396,551 万円
資産合計	2,558,619 万円	総資本合計(A+B)	2,558,619 万円

## ■資金収支計算書

町の資金が1年間でどれくらい増減したかを次の3つに分けて表しています。

H 2 4 年度末の資金残高 A	38,724 万円
H 2 5 年度の資金の動き (1 + 2 + 3) B	△ 4,975 万円
1 経常的なもの	115,764 万円
2 資本的なもの	△ 71,501 万円
3 町債の借入や返済など	△ 49,238 万円
H 2 5 年度末の資金残高(A+B)	33,749 万円

## ■純資産変動計算書

純資産が1年間でどれくらい増減したかを次の3つに分けて表しています。

H 2 4 年度末の純資産残高 A	1,358,026 万円
H 2 5 年度の純資産の動き (1 + 2 + 3) B	38,525 万円
1 経常的な行政コストなど	△ 620,243 万円
2 純資産の調達財源	657,295 万円
3 資産の形成など	1,473 万円
H 2 5 年度末の純資産残高(A+B)	1,396,551 万円

## ■行政コスト計算書

町の経費のうち、人件費や維持補修費などの日常的な経費が、1年間でどれくらいかかったかを表しています。

経常的な支出(1 + 2 + 3 + 4) A	550,023 万円
1 人件費（職員給料など）	131,558 万円
2 物件費（維持補修など）	94,961 万円
3 他会計への支援、補助金など	233,412 万円
4 委託費用、町債の返済金など	90,092 万円
経常的な収入 B	38,402 万円
まちの経常的な行政コスト(A-B)	511,621 万円

## ■純資産の増減とは

借金を返済することで増えたり、建物の老朽化や土地の売却などで減ったりします。

